

【悪魔】 司法試験の合格者の数をどの程度にすべきかについて、法律の専門家の間で意見が割れているようですね。何が原因なのですか？

【天使】 一言で言うと、法科大学院の設置と新司法試験の実施に伴って、司法試験の合格者の数を増加させていったことに対して、特に弁護士からの批判が強まってきたということだ。法曹人口の増加を含む司法制度改革は、法曹人口が慢性的に不足していた従来のが国の実務に対する有効な対処として期待されていたのだが、現場の弁護士からすると、十分な訓練なしに弁護士として活動する者が増えたことによる弊害の方が際立ってきたということだろう。

【悪魔】 でも、法律の専門家の数を急激に増やしたら、しばらくの間は成りたての弁護士が増えることは当たり前でしょう？ これまでの弁護士だって、弁護士として活動するのに必要な能力は、司法試験に合格した後に仕事をしながら身に付けていったはずですから、経験不足の弁護士が増えたから問題がある、というのは、時間がたてばそれなりに落ち着くんじゃありませんか？

悪魔と天使の法学入門

筑波大学准教授 星野 豊

第19話

法曹人口問題

せんかね。

【天使】 そんな悠長なことは言っていられない。司法試験合格者の数が急増した結果、新人弁護士を受け入れる既存の弁護士事務所の数が足りなくなり、そもそも弁護士としての実務能力を磨く機会自体が得られない合格者も急増しているようだ。司法試験に合格したにもかかわらず、失業する危険にさらされることは、司法制度全体にとってかなり深刻な問題であると言えよう。

【悪魔】 でもそのお話は、要するにこれまでは弁護士の数が少なかったせいで、司法試験に合格しさえすればどんな人でも弁護士としてそこそこ食べていけた、というだけのことでしょう？ 事件の数が変わらなくて弁護士の数だけが増えたら、その中で競争が起こるのは当たり前ですよ。世の中のほとんどすべての職業の人は、そのような競争の中で勝ち残ることを要求されているわけで、弁護士だけを安泰にさせる必要はないように思いますがね。

【天使】 それは違う。法曹人口が事件数と比較してバランスがとれなくなってしまうと、悪質な弁護士が当事者を煽^{あお}って事件を増加させたり、当事者から不当に利益を奪ったりするような事態が生じかねない。法曹人口問題は、単に弁護士間の問題ではなく、一般人を含めたわが国全体の問題と密接に関係しているのだ。

【悪魔】 それなら、当事者となる「一般人」とやりに、まともな弁護士とそうでない弁護士との違いを見分けることができるように訓練する方が先ですよ。世の中の専門家に対する目が厳しくなれば、専門家はいやでも能力を向上させて質の良いサービスをお客に提供しなければならなくなります。はつきり言えばですね、「弁護士」というだけで能力や人格が保証されるということは、最初から幻想なんです。その幻想を世の中の人たちに植え付けてきたのが誰なのか、私にはよく分かりませんがね。

【天使】 そのような見解は、法曹に対するのみならず、司法制度全体に対する重大な侮辱を含むもので、絶対に許容できない。わが国の国



民は高いレベル法秩序の安定による平和と繁栄の恩恵を従来十二分に受けてきたわけだから、司法制度による社会正義の維持の根幹を担う法曹の能力や人格に対して、もっと敬意を持って接するべきだ。

【悪魔】 今おっしゃったまさにその考え方が、法曹界に対する世の中の信用を大きく低下させている原因だと思えますよ。法律にせよ、法律の専門家にせよ、人と人が互いに信頼できなくなると、自分の利益のために相手を倒そうとするときに、活躍の場が出てくるわけですから、弁護士の数と法秩序の維持の程度は、実質的に相反する部分があるはず。おまけに、弁護士が国家からの自由を保障するために、依頼人から報酬を受ける制度になっていますから、当事者の利益のため、と言っている弁護士の活動自体が、そもそも疑いを持たれやすいものなんです。法律の専門家が今の社会的地位を維持しようとするのは当たり前かもしれませんが、自分たちの生活の基盤が結構ドロドロしていることを、もう少し考えてみた方がいいんじゃないでしょうかね。